
編集後記

原稿募集のアナウンスから締め切りまでの期間が短く、編集作業も年度末のあわただしい時期に重なりましたが、『人間発達学研究』の第1号をなんとか発行することができてホッとしているところです。今年度はややイレギュラーな形で作業が行われましたが、来年度からは投稿規程に従って（あるいはその見直しを含めて）順当に編集・発行作業を進めたいと思います。また、今回の『人間発達学研究』に掲載されている論文等は教員のものが中心になっていますが、その重点を徐々に大学院生の研究発表の場へとシフトできたらと考えています。(H)

今年度4月に、念願であった大学院人間発達学研究科（修士課程）が設置でき、10年以上大学院設置に向けて展開してきた活動がようやく実を結んだ感があります。そして今、修士課程の拡充と博士後期課程の設置に向けての作業に入り、同時に『人間発達学研究』第1号の発刊にこぎ着けました。大学院の質を測る一つのメルクマールは、その大学院がどのような研究科紀要を発行しているかであります。スタートしたばかりの研究科で、まだ右往左往していますが、この研究科紀要を充実させていくことを通して、質の高い教育研究活動の歴史を創っていきたいと思っています。(M)